

環境調査結果のお知らせ

令和6年9月2日10時から野見湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に有害なシャットネラ属が最高で1 cell/mL、貝類に有害なヘテロカプサ・サーキュラリスカーマが最高で1 cell/mL確認されました。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、よく洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属	ヘテロカプサ・ サーキュラリスカーマ	珪藻
A ガラク (3.7m) 【12:23】	0	30.0	22.9	8.0	0	0	4
	2	29.1	30.5	6.7	0	0	40
	5	28.9	32.5	6.2	0	0	60
	10	28.8	32.7	6.4	0	0	0
	底層 14.5	28.6	32.8	6.4	-	-	-
B 勢井 (3.9m) 【13:52】	0	30.7	25.8	7.9	0	0	140
	2	29.7	30.1	7.4	0	0	200
	5	28.8	32.4	6.0	0	0	40
	10	28.6	32.7	5.9	0	0	0
	底層 17.5	27.3	33.1	5.5	-	-	-
C 馬の背 (4.2m) 【14:12】	0	30.8	25.7	7.9	0	1	60
	2	29.6	30.2	7.6	0	0	200
	5	28.8	32.5	5.9	0	0	40
	10	28.6	32.7	6.1	0	0	10
	底層 23.5	25.7	33.7	6.3	-	-	-
D 大室戸 (3.2m) 【10:39】	0	30.0	26.5	7.7	0	0	40
	2	29.4	29.6	6.9	1	0	20
	5	28.8	32.3	5.9	0	0	20
	10	28.3	32.5	5.7	0	0	0
	底層 19.5	25.9	33.6	6.6	-	-	-
F 湾奥ブイ (3.8m) 【10:19】	0	30.0	25.9	7.7	0	0	2
	2	29.5	31.7	7.2	0	0	30
	5	28.9	32.5	5.7	0	0	0
	10	28.3	32.9	6.1	0	0	0
	底層 15.5	26.6	33.4	6.4	-	-	-



- A: ガラク
- B: 勢井
- C: 馬の背
- D: 大室戸
- E: 白浜
- F: 湾奥ブイ

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチャオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。